

見る・見られる楽しさ



運転席から降りて、愛車にうっとりで見とれてしまう。走り終えたばかりなのに、もうそこに乗り込みたくなってしまう。物語の主人公になったかのように、自分が格好良く思えてくる——。そんな体験ができる「見る・見られる楽しさ」を、徹底的に追い求めました。

コンパクトサイズでありながら、路面をがっしりと踏みしめるかのようなたたずまい。エンジンルームの温度をコントロールするためのエアインレットなど、走る機能のためのパーツひとつひとつにも、美しさを追求。さらには、エンジンルームの中も整然とレイアウトを整え、メカを愛するオーナーの期待にも応えられるようにしました。

さらに、オープンスポーツカーであるS660は、ひとたびルーフを開け放せば、インテリアも「エクステリア」と一続き。外から「見られる」ことを考慮して、質感や美しさにも、普通のクルマ以上のこだわりを込めています。



伸びやかさと迫力

自分たちがつくっているのは、軽自動車ではなくて最高に面白いマイクロスポーツカー。軽自動車という枠を飛び出すくらい伸びやかで迫力のあるデザインとするために、確固とした意志を持ってモデルラーや設計陣とともにデザインに取り組みしましたし、狙い通りのものができたと自信を持っています。

エクステリアデザイン担当
杉浦良



オープンカーで知った世界の色

最もこだわったカラーは、直感的に美しいと感じられる「白い光」をイメージしたプレミアムスターホワイトパール。入社当時は「インドア派」だった私に、先輩や同期がオープンカーで教えてくれた、気持ちのいい空気や光の存在がヒントになっています。あの気持ちよさを、乗る方にも感じていただきたいです。

カラー・マテリアル担当
落合愛弓



どこを見られても恥ずかしくない

S660 CONCEPTの魅力的なエクステリアを、量産モデルとしてかたちにするために、ゴムパーツのように普段は「スタイリング」に含まれないようなパーツにまで徹底的にこだわりました。どこを見られたって恥ずかしくない、胸を張って言えるデザインになったと思っています。

エクステリア担当
谷口正将



完成度バッチリの新機構

大ざっぱな性格でよかったなあ、と思うのは、「ロールトップ」の開発をしていたとき。前例の無い機構なだけに、考えなくてはならないことが多くありましたが、あまり深く考え込まずに「つくりながら考える」ことができたことで完成までこぎつけました。使い勝手も、デザインもバッチリ仕上がっています！

エクステリア担当
犬伏啓之



バイク乗りの想いを込めた

私はバイクが大好きです。加速やハンドリングと同じくらいこだわるのは、感覚で走らせる乗り物と意思を通わせるための存在であるメーター。直感的に情報を読み取って運転への集中を妨げず、一方で止まって眺めた時は美しさに酔いたい。そんな想いをスポーツカーのメーターとして形にしました。

電装担当
仲村賢志